

おもてなし文化創造事業の委託業者を募集

地域人材の発掘や観光商品づくりなど柳川らしい魅力を発信



市は、柳川に暮らす人が地域の資源を生かして、柳川を訪れた人を「おもてなし」する観光まちづくりを推進しています。

そこで市は、県の緊急雇用創出事業補助金「起業支援型地域雇用創造事業」を活用し、柳川の新しい観光の魅力を情報発信や旅行商品の企画など、「おもてなし文化」を生かした「水郷柳川おもてなし文化創造事業」に取り組む業者を募集します。

●事業内容 ▶柳川おもてなし文化プロジェクト（仮称）＝おもてなし文化や地域人材の発掘、新たな観光商品づくりや情報発信などを行う▶おもてなしと物語ある旅・柳川ガイドブック（仮称）製作＝同プロジェクトで提案された内容を元に、地域の人を紹介しながら

ら四季を通じた柳川の旅や体験を提案する情報誌の製作など

●選定方法 業者が応募した企画提案の関係書類を審査して選定、1 業者と委託契約、契約期間は来年 9 月 30 日まで

●応募条件 次の条件にすべて当てはまる業者
▷起業後 10 年以内で、起業時から県内に本社があること▷事業を受託した業者は、ハローワークを通すなどして失業者を 2 人雇用すること。また、新規雇用者への人件費が、総事業費の 2 分の 1 以上であること▷新規雇用者を 2 年目以降も継続雇用することができること▷同事業開始時から市内に事務所を有することが見込めることが望ましい

●応募方法 8 月 1 日～ 30 日（必着）に、企画提案に必要な書類など一式を、柳川庁舎 2 階観光課へ郵送か直接提出。メールによる応募は不可。仕様書や様式は、同課や市公式サイトで入手可

問い合わせも、同課観光企画係（☎ 77・8564、〒 832・8601 柳川市本町 87 番地 1）まで。

柳川市総合美術展に出品しませんか

洋画部門に北原悌二郎賞を創設、美術展は 10 月 27 日から

- 題材 自由（出品作品は自作で、未発表のものに限ります）
- 出品点数 1 部門 2 点以内
- 出品規定

▷日本画＝ 20 号以上 100 号以内（額装のこと）
▷洋画＝ 20 号以上 80 号以内。油彩、水彩、版画、パステル（額縁つき）

▷書道＝額装とし、仕上がり寸法は 182cm × 51cm 以内、または 120cm × 90cm 以内の縦横自由。てん刻は印影とし、アクリル板付き額（縦 39cm × 横 30cm）とする。卷子本・帖は、縦 40cm × 横 220cm 以内とする。屏風は縦 73cm × 横 182cm 以内の二曲屏風とする。
※楷書で書いた釈文を作品と一緒に提出すること。歌詞などを題材として使用した場合、著作権者から承諾を得たことを釈文用紙に朱書きすること。

▷写真＝半切以上全紙まで（組写真や連作写真は、1 組で 1 点とし 120cm × 90cm 以内、縦横自由）
※枠張り（パネル張りや額縁は不可）
※デジタル加工や暗室作業などでの合成や削除、加筆、特殊効果は不可。ただし、コントラストやカラーバラ

ンスなどの画像調整は可。デジタルカメラでの撮影作品も応募可能
※肖像権の問題が発生しないように被写体となる人たちの同意を得ること
※応募要項は、市公式サイトより入手可

●出品資格 高校生以上
●作品搬入 9 月 28 日（土）、29 日（日）、午前 10 時～午後 5 時、市民体育館（作品裏面右上に必ず作品票を貼り付けること）

●出品料 1 部門 1 点目 1000 円（2 点目無料）、高校生無料

●賞 各部門に大賞（賞金 15 万円）他、賞あり。表彰式は 11 月 4 日（月・祝）

■洋画部門特別賞「北原悌二郎賞」を創設

多年にわたり、洋画家として優れた作品を発表し芸術文化の振興に貢献され、また後進の指導に熱心にあたられた故北原悌二郎先生の功績をたたえ、洋画部門で活躍する優秀な人材の育成を目的として、50 歳以下の方を対象とした北原悌二郎賞を創設しました。

問い合わせは、市生涯学習課文化係（☎ 77・8832）へ。



▲県内で初めて出土したト骨

▼池淵遺跡（蒲池）から出土した弥生時代の土器



柳川古文書館は、市内の遺跡から出土した遺物を紹介する企画展を開催しています。

遺物は、近年の大きな道路工事などで発掘された 6 か所の遺跡から出土したもの。弥生時代から江戸時代にかけての土器、石器、陶磁器、動物の骨、貝殻など約 250 点を展示しています。

また、県内で初めて出土したイノシシやシカの骨を使った占いの跡が残る「卜骨」も、特別に九州歴史資料館からお借りしています。さらに、当時の海岸線を考える上で貴重な情報となる、蒲池地区から出土した弥生時代の貝殻や魚の骨などもあります。

この他、イネを収穫するときに穂を摘み取る石包丁など、石を加工して道具にした石器、弥生時代の土器、中世に中国から輸入された青磁も展示しています。柳川で初めての考古遺物展です。この機会に、ぜひご来館ください。

●会期・休館日 9 月 1 日（日）まで、月曜休館

●開館時間 午前 9 時 30 分～午後 4 時 30 分

●会場 柳川古文書館、入館無料
問い合わせも、同館 ☎ 72・1037 へ。



柳川市のうち、旧大和町・三橋町の寺社について、平成 18 年から 24 年まで 7 年間行った 115 件の寺社の調査結果を掲載しました。併せて、旧柳川市内の寺社、立花家や旧藩士家に伝わった文化財、近代の絵画などの補充調査とともに、清楽寺（中山）にかつてあった金銅板両界曼荼羅（国指定重要文化財）や、安東家に伝わった琴、富士山画家である柳川出身の龍駿介の作品なども取り上げました。A4 判・縦組、402 ページ、付索引・月報 18、価格 1500 円（税込）



三瀧荘・瀬高荘の荘園史料として、平安後期から戦国時代まで柳川市域（旧三瀧郡・山門郡）一帯に広がっていた三瀧荘、瀬高上・下荘関係の史料を収録しました。柳川の古代末から戦国時代にかけての基礎史料集です。特に、国指定重要文化財「鷹尾神社大宮司家文書」のうち、中世の古文書 127 点を全文翻刻し、写真も収録。また、田中吉政・忠政関係史料として、田中（吉政・忠政）家に関係する史料を、吉政の出生した近江時代からのものも含めて 377 点収録しました。A4 判・縦組、754 ページ、価格 3000 円（税込）

柳川市史『史料編Ⅱ』

* 荘園（三瀧荘・瀬高荘）史料／田中吉政・忠政関係史料*

新刊 市史

市は、2 冊の新しい市史を刊行しました。柳川古文書館の他、白水堂書店、トミヤ、Books あんときやながわ店・みずま店、古雅書店の各書店でも購入できます。

なお、柳川市史『史料編』はこれで完結しました。問い合わせは、市生涯学習課市史編さん係（☎ 72・1275）へ。